

令和6年度第2回（第59回）栗東歴史民俗博物館協議会の概要

開催日時 令和7年1月24日（金曜日）13時30分から15時20分まで

開催場所 栗東歴史民俗博物館 会議室

出席者

協議会委員 大西 洋子（会長）、奥野 初恵（副会長）、
宇野 日出生、大橋 信弥、川那部 隆徳、國賀 由美子、鈴木 元彦、
高宮 弘、西尾 悦子、林 優里 の各委員（10名）

事務局 太田 吉明（教育部長）
赤井 信司（スポーツ・文化振興課 課長）
大西 稔子（歴史民俗博物館 館長）
中川 敦之（歴史民俗博物館 係長 ・ 学芸員）
木村 毅（歴史民俗博物館 再任用）

欠席者 なし

傍聴者 1名

概要

1. 開会

2. 協議事項

- ①令和6年度下半期の博物館事業について
- ②令和7年度の博物館事業について
- ③その他

3. 連絡事項

4. 閉会

議事

1. 開 会

開会の挨拶（大西 洋子 会長）

開会の挨拶（太田 吉明 教育部長）

挨拶と報告（大西 稔子 館長）

2. 協議事項

①令和6年度下半期の博物館事業について（報告）

資料に沿って、事務局（係長）より説明。

（A 委 員） 「文化財関連事業への講師派遣等」について、日程・会場・演題は示されているが、講師や受講者数は示されていない。講師や受講者数も示すようにすれば、イメージが湧きやすいように思う。

（B 委 員） 『紀要』に事業報告を掲載している博物館もある。『年報』を公開しているならそちらでも良いので、誰がどのような講座を担当したかという、学芸員の実績を残しておくことが大切ではないか。

②令和7年度の博物館事業について

資料に沿って、事務局（係長）より説明。

（C 委 員） 博物館教室「昔の暮らし」に関して、大阪・関西万博や、県が会場となる国スポ・障スポの影響もあり、バスの確保が難しくなっている。校長会でも、校外学習のあり方を検討しているが、博物館教室「昔の暮らし」について、出前授業をお願いすることはできないか。

（係 長） 令和7年度にむけて校外学習でのバスの確保が難しくなっている状況については、個別の小学校からも伺っている。ご来館いただくことを基本としつつ、市内の小学校向けには出前授業での対応が必要となるかも知れないということは担当者とも話しをしており、校長会の先生方とも相談させていただきながら進めていきたい。

（D 委 員） 県文化財保護協会と共催する栗東市内発掘調査成果展「レトロ・レトロの展覧会」について、市スポーツ協会（市出土文化財センター）でもさまざまな事業の計画を立てておられると思うので、十分に連携を図りながら進めていただきたい。

（A 委 員） 令和7年度の重点目標に挙がっている大規模改修とはどのような内容か。

（係 長） 屋外機械室の熱源機器や館内の空調機器等、施設・設備の抜本的な改修・更新が必要な時期であり、その計画を少しでも具体化するという趣旨である。

（A 委 員） RISS ミュージアムロビーコンサートについて、50回目を契機として終了すると仄聞したが、事実か。

- (課 長) 歴史民俗博物館を会場として開催するのは終了するが、会場を変えて開催していくということで、音楽振興会と協議している。具体的な会場は決まっていない。
- (会 長) RISS ミュージアムロビーコンサートを終了することについては、市から提起があったもので、音楽振興会としての本意ではない。
歴史民俗博物館では展覧会や講座等、さまざまな事業に取り組まれているが、RISS ミュージアムロビーコンサートについても、文化を楽しむという目的で始まったものである。演奏者も来場者も、歴史民俗博物館という場所であるからこそその満足感を得ておられ、楽しみにしている市民も多い事業である。
市民のものである歴史民俗博物館で、年間2〜3回のRISS ミュージアムロビーコンサートを開催することが本当に無理なのかという思いを持っている。さまざまな問題について折り合いをつけながら実施していく方法はあるのではないかと感じている。
委員各位のご意見や、教育部長のお考えを伺いたい。
- (館 長) 経緯についてお話ししたい。
50回を契機として終了しては、という提起をした背景には、令和6年6月2日(日曜日)の「RISS ミュージアムロビーコンサート48」に300人もの来場者があり、施設管理の上で安全面の懸念が生じたことがある。また、RISS ミュージアムロビーコンサートが開催されている時間帯に歴史民俗博物館の展覧会を鑑賞に来られた方が、館内の混雑状況を見て入館を断念されることもあり、現状のRISS ミュージアムロビーコンサートのあり方が市民にとって望ましいものなのかという疑問も感じていた。
令和7年度には、新たな学芸員を採用することで、美術工芸品の展覧会を充実できることから、展覧会を鑑賞に来られた方への対応を優先したいと考えている。
- (D 委 員) RISS ミュージアムロビーコンサートは歴史民俗博物館の主催ではないとのことだが、「ミュージアム」コンサートと銘打つならば博物館が主催すべきものだと思う。県立安土城考古博物館では、館が企画し、演奏者に依頼するというかたちをとっていた。
個人的な考えとしては、博物館でのコンサートはあったほうが良い事業と思うが、条件整理は必要となる。また、施設管理者と演奏者が異なるとさまざまな問題が生じるので、実施するならば博物館が主催すべきである。
- (A 委 員) スポーツ・文化振興課と音楽振興会が主催する事業で、歴史民俗博物館は会場を提供している立場ということならば、歴史民俗博物館が条件を提示すれば良いのではないかと。
- (館 長) 11月4日(月曜日・振替休日)の「RISS ミュージアムロビーコンサート

49」では入場者を絞っていただく等の対応をとったが、それでも展覧会の鑑賞を諦める方があった。

(会 長) 主催者については、当初は歴史民俗博物館と音楽振興会の共催で始まったが、途中から教育委員会と音楽振興会の共催に変わったという経緯がある。

(E 委 員) RISS ミュージアムロビーコンサートには何度も訪れている。
歴史民俗博物館の展覧会を鑑賞に来た方が帰らざるを得ない状況は間違っていると思うし、演奏により展覧会を鑑賞する環境が悪化したという事例はあったかも知れないが、一方で、狛坂磨崖仏（レプリカ）の前での演奏を楽しみにしている市民もいる。

歴史民俗博物館の展覧会が優先されるのは当然だが、RISS ミュージアムロビーコンサートでの演奏をバックミュージックとして展覧会を鑑賞できるような環境を整えば、歴史民俗博物館にとっても良い効果があるのではないか。可能であれば継続されれば良いと思っており、調整して開催する方法はあるのではないか。

(F 委 員) 私も RISS ミュージアムロビーコンサートにはよく訪れており、継続してもらえればと思っている。方法はありそうに感じる。

(館 長) スポーツ・文化振興課が所管する事業であり、そちらでの検討となる。

(B 委 員) 検討していただくのは結構なことで、私も賛成である。ヨーロッパの美術館等と違って、日本の博物館はコンサートを開催することを考えていない構造となっているが、演奏する場所という観点で考えれば、京都では寺社を会場としたコンサートも行われている。

市外にはなるが、コンサートの会場として利用できそうな神社を知っており、紹介することも可能である。

(会 長) ありがたいお申し出をいただいた。
音楽振興会の大きな目的は市民への音楽の普及であり、歴史民俗博物館でのコンサートが始まった背景にも、芸術文化会館さきらとは別の場所にも演奏の拠点を作り、さきらまでの移動の手段を持たない市民にも文化と音楽に親しんでいただきたいということがあった。

ありがたいお申し出であるが、市外でのコンサートの機会については、この事業とは別の枠組みで考えさせていただきたい。

コンサートへの来場者だけではなく、音楽振興に携わっている者の思いもくみ取っていただきたいと感じている。

(G 委 員) RISS ミュージアムロビーコンサートが始まったときと現在では、歴史民俗博物館の状況も異なっていると思うが、継続する方法はあるのではないか。

新たな学芸員を採用することで歴史民俗博物館の方向性が変化するのであれば、重点目標に盛り込む等分かりやすく示してはどうか。

- (部長) RISS ミュージアムロビーコンサートが回数を重ね、多くの集客を得られるようになる中で、歴史民俗博物館の構造をはじめさまざまな問題が表面化してきた。その都度、協議をしながら進めてきたが、従来どおりのかたちで継続していくのは難しいと判断し、今回の提起をしたという経緯がある。
- 委員各位からもさまざまなご意見をいただいた。私の個人的な意見であるが、歴史民俗博物館のロビーに止めるのではなく、例えば、毎年秋に歴史民俗博物館と図書館、自然観察の森で行っている「3 施設連携事業」の際に、文化ゾーン全体の集客につながるようなコンサートを開催できれば良いのではないかという意見を持っている。これまでの積み重ねを 0 にするのではなく、より発展的な事業としてつなげていきたい。
- (副会長) 令和 7 年度の博物館講座「かまどめしを炊こう！」は、5 回の開催を計画されている。令和 6 年度にも 5 回開催されたが、参加者数についてはどのように評価しているのか。
- (係長) 各回の定員を 20 人としているが、定員に達したのは 6 月 15 日（土曜日）開催分のみで、定員を超過しての抽選はなかった。コロナ禍以前に開催していた時は抽選になることも多く、コロナ禍でも開催に関するお問い合わせは多く寄せられていたので、もう少し多くのお申込みがあると予測していた。来年度の開催に関するお問い合わせもいただいております、継続していくことで申し込み数も増えていくと思う。
- (副会長) 令和 7 年は終戦 80 年・昭和 100 年の節目ということで、終戦 80 年展「平和のいしずえ 2025」を計画されている。1 つの提案であるが、資料に触れられる展示や、食の体験等、当時の生活を実感できる機会を設けていただけないか。学校での観光バスの確保が難しいというご意見もあったが、夏休みでもあり、身近な場所で学習できる機会をつくっていただくことを期待したい。
- (係長) 県平和祈念館では、防空頭巾をかぶるなど、資料を用いたワークショップを開催されていた。歴史民俗博物館の資料で可能な方法を検討していきたい。また、食の体験では、コロナ禍以前には夏休みの博物館講座「かまどめしを炊こう！」を戦時中の食事バージョンで開催したこともあったが、昨今の酷暑もあり、移築民家旧中島家住宅での体験についてはよく検討したい。
- 令和 6 年度には、生涯学習課が主催する平和学習の会場として歴史民俗博物館が用いられ、講師派遣も行ったが、令和 7 年度にも同様の事業を計画するということなので、戦争の時代をより体験的に学ぶ機会となるよう協力して進めていきたい。
- その他、終戦 80 年展「平和のいしずえ 2025」の関連事業として、戦時中

の栗東の暮らしを知る方々のお話しを伺う講座を予定している。戦時中の暮らしを知る方々の年齢を考えると、今、お話しを伺っておくことは、子どもたちの学習という面でも貴重だが、歴史民俗博物館にとっても貴重な記録となり、今後の平和事業の取り組みにもつながっていく。

(副 会 長) 広島平和記念資料館が近年リニューアルされた。展示の内容も改編され、昔ほどのリアルさがなくなったように感じた。リアルなものを見せることの是非はともかく、戦争がどのようなものかということについて、見るだけでなく、体感的に学ぶことも必要だと思う。終戦 80 年展「平和のいしずえ 2025」の取り組みに期待したい。

(H 委 員) 冒頭の話題と重なるが、展覧会についても担当者を明記したほうが良いと思う。

本日の議事の中で、令和 7 年度に採用される学芸員への期待が高まっていると感じる。専門である美術工芸品について、これまでの経験や知識があったとしても、実際に歴史民俗博物館の学芸員として働くこととは別の話であることは、十分に考慮してあげて欲しい。

現在の歴史民俗博物館は、博物館法で言われる学芸員に当てはまるのは係長だけで、令和 7 年度にひとり増えても、まだ学芸員の数が不足している。そのことを訴えていく必要がある。

(F 委 員) 市民学芸員の会の活動について報告したい。

会員は 17 人で、会員外の参加も含めて 10 人程度が、月に 1 度の『東海道名所図会』輪読会とその予習の会を中心に活動している。

博物館教室「昔の暮らし」に協力できないかということで検討しているが、会として協力するのは至っていない。

「竹村定治コレクション」(鉄道資料コレクション) について、会が進めていた整理作業がひと段落し、令和 9 年度の展覧会開催に向けて歴史民俗博物館と協力して進めていきたい。

③その他 事務局(係長)より、協議会委員の任期(2 年間)が令和 7 年 3 月 31 日で満了となること、次期協議会委員の任命については、事務局より改めて相談させていただく旨を報告。

3. 連絡事項 特になし

4. 閉 会

閉会の挨拶(奥野 初恵 副会長)

閉会の挨拶(赤井 信司 スポーツ・文化振興課 課長)